いのちとおかげ

いただきます

今から２年前（2010 年）に食事の言葉が変わりました。今回のご講師片江哲海先生は、昨日（28 日昼席）『いのちをいただく』（内田美智子・文／西日本新聞社）という本を紹介されながら、新しくなった食事の言葉「多くのいのちとみなさまのおかげにより」の意味についてお話くださいました（以下は本の要約）。

食肉加工センターではたらく坂本さんは、自分の仕事がいやでした。大事な仕事と分かっていても、殺される牛と目があうたびに仕事がいやになりました。

ある日、坂本さんの息子しのぶ君は、学校で「お父さんが仕事ばせんと（略）校長先生も会社の社長さんも肉ば食べれんとぞ。すごか仕事ぞ。」と聞いてきます。「お父さんの仕事はすごかとやね」と言われた坂本さんは、もう少し仕事をつづけようかなと思います。

しばらくたったある日、牛がトラックで運ばれて来ました。トラックには女の子が乗っていて、

「みいちゃんが肉にならんとお正月が来んて、じんちゃんの言わすけん。みいちゃんば売らんとみんなが暮らせんけん。ごめんねぇ。みいちゃんごめんねぇ。」と牛の腹をさすっているのを見てしまいます。

坂本さんは、明日は休もうと思いました。

もったいない

ごちそうさま

その話をすると、息子のしのぶ君は「お父さん、やっぱりお父さんがしてやった方がよかよ。心の無か人がしたら、牛が苦しむけん（略）」といってくれました。

その後のことは省略しますが、紆余曲折の後、結局坂本さんが担当して牛を殺して解体しました。

後日、牛の持ち主だったおじいちゃんがやってきて御礼を言い、その後の話をしてくれました。

「きのう、あの肉ば少しもらって帰ってみなで食べました。孫は泣いて食べませんでしたが、みいちゃんのおかげで皆が暮らせるとぞ。食べてやれ。みいちゃんにありがとうと言うて食べてやらな（略）って言うたら、孫は泣きながら『みいちゃん、いただきます。おいしかぁ、おいしかぁ』言うて食べました。ありがとうございました。」

坂本さんはもう少しこの仕事を続けようと思いました。

大体このような内容でした。私はこのたびのご縁で、毎日いただく「いのち」はもとより、手元にとどくまでの多くの方々の「おかげ（大変な思いやご苦労が）」あることを知りました。「いただきます・ごちそうさまを」決して忘れてはならないと思うとともに、食べ残しにも気をつけようと思うことです。

ありがとう・ごめんなさい

〔食前のことば〕
多くのいのちと、みなさまのおかげにより、
このごちそうをめぐまれました。
深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

合掌

〔食後のことば〕
尊いおめぐみをおいしくいただき、
ますますご恩報謝につとめます。
おかげで、ごちそうさまでした。

※食中毒防止のため、早めにお召し上がり下さい。

西教寺進徳仏教婦人会

私たちといっしょにお聴聞しましょう